



一人ひとりの個性を活かし

地域密着型の選ばれる金融機関へ

上越信用金庫

大学前支店 支店長

飯塚 加代子さん

(勤続36年)



地元と共に成長

飯塚加代子

profile

勤続36年。地元高校を卒業後、入社する。最初は支店に配属され、その後、何店舗か回り、23歳の時に融資業務を担当する。32歳の時に本部の融資部で仕事をしたいと配属希望を出し、そこから15年ほど融資部で務める。今まで女性が関わって来なかった融資業務を担当してきた経験とスキルを高く評価され、平成28年に、女性第1号の支店長となる。

ポイント1 女性職員に 職域を広げてもらう

当金庫は12年前に合併をしています。その際に一時、採用を抑えたことがあり、その結果、30代の層が極端に少なく、いびつな人員体制となっていました。何とか女性に職域、仕事の場を広げていってもらわないと、仕事そのものがまわっていきません。今までの金融業界の流れとして、女性職員は窓口業務、あるいは預金業務を担当するということが大半でした。それを今の時代背景の中で、仕事の幅、職域を広げようという方針を掲げました。女性



の渉外担当を置いて既に4、5年が経ちます。採用2年目の職員は、女性職員も1年間をめどに営業に出ます。これは、かなり先進的だと思います。全職員が職域を広げようという意識付けになって、性別による壁が少しずつ取り払われてきているように感じます。

ポイント2 女性活躍推進作業部会の 設立

昨年の4月に、女性活躍推進作業部会を設立しました。当金庫には、他にもたくさん作業部会があるのですが、女性が働きやすい職場づくりについて話し合う部会はなかったので発足しました。これからどうやって働いていったらいいかという事を検討しつつ、今動いている真っ最中です。テーマとして、①職域拡大②仕事をつくる、②人材育成③人を育てる、③環境

整備④職場をつくるということを目指して活動しています。この3本柱を中心に、職員がイキイキと活躍できる職場づくり、組織的な渉外力向上に向けて様々な提案をして活動しています。将来的には男性も入れて、全職員が本場に活躍できる働きやすい職場をつくっていきたいと思います。それが自分のためになり、金庫のためになり、地域のためになるということが最終目標です。

一人ひとりの能力を活かし業務をしていくことが上越信用金庫の発展につながると考えています。

ポイント3 育児明けの職員への フォロー研修

育児休業の取得率は100%ですが、1年半ほど業務から離れることになり、そのため、復帰後いきなり営業店で仕事というのは不安が大きいという声がありました。そこで、育児明けの職員に精神的フォローと業務フォローをするための研修を実施しています。休んでいる間に法改正や、業務が変わることが多いため、担当部署からその間の説明をしてもらいます。育児明けの職員は、ある程度の知識をもって業務に臨むことができる。」と喜んでいきます。

ポイント4 女性支店長第1号の誕生

地域のお客様から見方を変えてもらせることを期待して女性の支店長を誕生させました。当金庫に新しい風を入れていきたいです。そして更に2人目、3人目をつくっていくことによって、女性にも大いに管理職を目指して欲しいです。実際

ポイント5 個性を活かした業務をする

女性でも渉外が合う人がいますし、男性でも内勤が合う人もいます。大学前支店は、女性が多い小規模店舗ということもあり、男性職員も窓口に出ますし、出納業務も担当します。このように個性を活かした業務運営がすべての店舗に浸透していけば、全員の仕事の幅が広がり、お客様

Message 飯塚加代子さん

地域に貢献し地域が豊かになることで信用金庫も豊かにしていきたいです。それは自分がこれまで勤めてやっとなどり着いた目標です。ここで働かせていただいた良かつたところを感じています。

「一緒にお話を伺った方」
専務理事 大堀 芳和さん
総務部 課長(総務担当) 山田和美さん



大学前支店は店内が明るくオープンで相談しやすい雰囲気

interview memo

女性支店長、第1号の誕生が、金融業界に新しい風を吹かせている。上越市で地域と共に歩み、地域に根差す信用金庫だからこそ、いち早くこうした改革を進めることができたように思う。大学前支店の皆さんの明るくあたたかな雰囲気、とても清たく心地よく、「女性が元気だと男性はついてくる。」と話された支店長の言葉が心に響いた。お母さんが元気で明るい家族みんなも元気になる。会社も家庭も同じ。それぞれの持ち味、個性が活かされることが大切だと感じた。